



## 通算 4 アンダーの 284 ストローク

宮崎・日章学園高 3 年

# 香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)が初優勝



念願の初優勝。カメラマンの注文に応じる香妻陣一朗

18日の大会最終日は80選手が出場して最終ラウンドが行われ、この日3オーバー、75ながら通算4アンダー、284の宮崎・日章学園高3年、17歳の香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)が4日間首位での完全で初優勝した。香妻は、姉の琴乃(現プロ)が2009年九州女子選手権で優勝しており、姉弟で初めて男女の九州アマを制した。また、琴乃がジュニア時代の2008年九州ジュニア選手権では、同一大会で姉弟制覇している。

香妻は今年、日本ゴルフ協会(JGA)のナショナルチームメンバー入り。日本アマのシード権を持っていたが、念願の「九州アマのタイトル」を目指しての参戦。前回優勝の時松源藏(福岡・沖学園高)がプロ転向、前々回優勝の三重野里斗(沖学園高3年、大分)が欠場で、優勝候補の筆頭に挙げられていた。

今選手権は初日、通信制の福岡・一ツ葉高2年、16歳、千葉蒼隼(若松)とともにトップに立ち、3日目にはその千葉に2打差をつけて単独トップ。最終日はスコアを落としたものの、千葉も伸びず、逃げ切った。

3打差、287の2位はその千葉で、3位には九州高校選手権春季大会を制した鹿児島・尚志館高2年、16歳、池村寛世(リージェント宮崎)が通算3オーバー、291で、さらに1打差の4位には専大2年、19歳、小浦和也(宮崎国際空港)が入った。3日間3位につけていた福岡第一高2年、石塚祥成(福岡雷山)は最終日81と崩れて9位タイだった。

このところのジュニア勢の台頭を今年も見せつけられる大会となり、8オーバー、12位タイまでの13人中、大学生が小浦1人で、残りは全て高校生のジュニアだった。

シード権を持つ香妻と上位14人が第97回日本アマチュア選手権(7月3～7日・奈良国際GC)、通算

20オーバー、308の28位タイまでの30人が第42回九州オープン選手権（6月15～17日・佐賀クラシックGC）への出場資格を得た。

コンディションは晴れ、気温24.4度、西の風3m（午後1時現在）



## 「欲しいタイトルでした」 千葉とのマッチレースを制しての初Vにも 顔色さえない香妻

今やジュニア界ではなく、日本アマチュア界の第一人者に成長した香妻陣一朗。

強力なライバルが不在と言われる中で、ある面では「自身との戦い」とも思われていたが、終わってみれば、しつこいまでに千葉に食い下がられ、打数差以上に薄氷を踏む勝利だったろう。

勝ったとはいえ、厳しい優勝に「達成感はなく、とりあえず勝っただけ。（目標のゴルフができなかった）自分と、厳しいセッティングのコースに負けた」と表情はさえなかった。

今大会、予選の2日間はスコアを伸ばし、6アンダーでの決勝ラウンド。3日目も1つ伸ばし、昨年記録された最少優勝ストロークの『7』になり、あるいは2ケタアンダーも、と思われるほどのその記録を更新しての優勝に照準が当てられた。

しかし、千葉が初日からピタッとくっつき、容易に離れない。グリーンは厳しいピン位置なのに、加えて晴れて風もあり、硬く締まったグリーンは乾いて速度を増した。香妻はドライバーショットの不調をカバーするため、2番アイアンでのティーショットという場面も目立ったが、やはりグリーンに手こずり、前半1バーディー、3ボギー。後半も2バーディー、3ボギーで記録更新どころか、3つもスコアを落としてしまった。

相手の千葉も肝心なところでのミスパットや、OBを打つてのトリプルボギー（10番）と乱れ、結果的には逃げ切りを許した格好だった。

香妻が「達成感がない」と言うのもうなずける。ハーフターンで「スコアより優勝」と意識を切り替えたものの、「ちっちゃいゴルフになってしまった」と苦笑いした。

ただ、大会を振り返ってみれば、「年々ゴルフがうまくなってきていると自分でも思う」と言う。安定感が出てきたという心の余裕が、「バタバタしなくなった」のだ。冬場の体力、筋力アップのトレーニング。「安定して飛距離が出てきたし、その分、ゴルフが楽になった」。それが成長の証しだ。

この後は、ナショナルメンバーとして迎える日本アマ。「（九州で）勝って自信をつけて日本アマを迎え、（プロツアー出場資格を得るための）QTへ、というのが目標だった。それに向かって挑みたい」と力強く答えてくれた。（Kiku）



戦い終わって

=左から香妻、千葉、石塚祥成の各選手



競い合った香妻と千葉



## それぞれの九州アマは…

○…香妻をとらえきれず2位に終わった千葉蒼隼 「10番（OBでトリプルボギー）が全て。最後まであきらめなかったけど、自分とコースに負けた。けど、大たたきした後、崩れなかったのは成長したと思う。そこは自分をほめたい。目標は日本アマでの決勝マッチプレー進出。来年は大きくなって帰ってきたい」

○…ジュニア勢が上位を占める中で4位に食い込んだ小浦和也 「負けたくなかった。香妻は（高校の）後輩だし…。調子は悪くなかったけど、思うようにはできず、コースに負けた。九州オープンで雪辱したいです」

○…5位タイの比嘉一貴（パブリック協会、沖縄・本部高2年） 「（4バーディー、3ボギーでスコアを縮めるも）初日の77が最後まで響いた。調整の失敗です。パブリック協会に出ているので、来年のシード権が得られる5位以内が欲しかった…」

○…15位タイでぎりぎり日本アマ出場権の前年九州ミッドアマチャンピオン、40歳、荒川英二（福岡雷山） 「今大会、練習ラウンドは良かったし、優勝争いに絡みたいと思っていたんだけど、試合になって思うようなゴルフができなかった。日本アマでは決勝マッチプレー目指して頑張ってきます」



小浦和也



## 香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)が初優勝に王手

### マッチレースから一歩抜け出し、単独首位に

3日目は 84 選手による決勝第 1 ラウンドが行われ、この日ベストスコアの 71 で回った宮崎・日章学園高 3 年、香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)が通算 7 アンダー、209 とし、単独トップに立った。香妻は立ち上がりリショットがぶれていたが、5 番でバーディーを奪ってから徐々に軌道修正。結局、5 バーディー、2 ボギー、1 ダブルボギーとただ 1 人、アンダーパーをマークして抜け出した。

香妻と首位タイでのスタートの福岡・一ツ葉高 2 年、千葉蒼隼(若松)は 17 番まで 4 バーディー、3 ボギーと競り合っていたが、最終 18 番でダブルボギーをたたき、通算 5 アンダー、211 で 2 打差の 2 位。3 位には通算 1 アンダー、215 で 16 歳の福岡第一高 2 年、石塚祥成(福岡雷山)がつけ、さらに 2 打差の 5 位タイにこの日イーブンパーの専大 2 年、小浦和也(宮崎国際空港)と山口福祉大 2 年、徳山雄大(麻生飯塚)の 19 歳コンビがつけた。

晴れで気温 24.9 度、西の風 4 m (午後 1 時現在)。速いグリーンと難しいピンの位置にスコアは伸びず、通算でアンダーパーは 3 人だけ。上位陣の顔ぶれも香妻が抜け出したほかは大きくは変わらなかった。

ベテラン勢は不調で、昨年の第 1 回九州ミッドアマ優勝の 40 歳、荒川英二(福岡雷山)は、54 歳の野上英司(ミッションバレー)とともに通算 13 オーバーの 21 位タイ。前回大会 3 位の 34 歳、日高雅司(宮崎国際)は体調不良で 3 日目から欠場した。

なお、この日、12 番(170 ヤード、パー 3)で 49 歳の中東寿(ミッションバレー)がホールインワンを記録した。



(C)GUK

6 番で上から 13m のロングパットを沈めバーディーとする香妻陣一朗



### 香妻「2 差はないも同然」 千葉「パターが入れば…」

その実力から、「順当に」と言えば順当な 3 日目の結果となった。

ジュニア(高校生)による優勝争い。それも、6 アンダーで並ぶ香妻陣一朗と千葉蒼隼のマッチレースが予想されたわけだが、17 番まで一進一退を続け、お互い譲らない展開。それが、香妻の 1 打リードで迎えた最終 18 番、香妻がアプローチが寄らずボギーとすると、千葉はディポットからのショットがバンカーのあごに刺さり、出すだけなどのトラブルに見舞われ、ダブルボギー。結局、2 打差でのホールアウトとなった。

香妻は「今日はドライバーショットは良くなかったが、アプローチが良かったので…」と振り返り、最終日は、「今日のピンの位置は難しかった。明日はもっと難しくセッティングされるんでは。2 打差はあってないようなものだし、2 ケタアンダーでの優勝は無理



(C)GUK

追う千葉蒼隼



かな」と控えめな抱負。

しかし、4日間トップの完全での初優勝。それも、昨年大会で時松源藏（福岡・沖学園高出、プロ転向）が記録した最少優勝スコア『7』の更新は、間違いないところだろう。そう水を向けると、「そうですね。バーディーが取れているし、自分のゴルフができていますので、明日もしっかりバーディー取って」と自信を垣間見せる。

一方の千葉。18番の不運を除けば、「今日は予定通り完べきなゴルフだった」。ショットは全く悪いところはないそうで、「今日と同じようなゴルフでパターさえ入れれば、（優勝へ）行けそうな気がする」と言い切った。

もちろん、相手にとって不足はあるまい。「気持ちしがしびれることもない」と言う千葉がどんなゴルフを見せてくれるか。 (Kiku)

香妻陣一朗の  
アプローチショット

### 「目標は日本アマで決勝マッチ進出」池村寛世

○…春の九州高校選手権優勝の鹿児島・尚志館高2年の池村寛世（リージェント宮崎）がこの日、2オーバーの74と踏みとどまり、単独4位につけた。「今日はよく辛抱できた。ボギーを打たないゴルフを目指したが、アプローチが寄らなかつた」と言う。

というのも、この日は得意のドライバーがぶれ気味で、「250ヤードは飛び、安心して打てる5番ウッドを4～5回使いました」。これが結果的に大げがせずすみ、「辛抱した…」の自己評価になった。

さて、最終日の目標は「日本アマの出場権」。そして、5位以内に入ってシードを取り、決勝マッチに進みたい。そのために、「明日は攻めていきたい」とはっきりしていた。



単独4位につけた  
池村寛世



### 「若者とのラウンドは楽しかった」

参加最年長の安河正彰

○首位に6打差の3位につけた石塚祥成 「きょうは前半のフェアウエーキープがゼロ。後半盛り返したので明日につなげたい。けど、上は崩れそうにないので、自分のゴルフを心がけたい」

○この日73で通算5オーバーの9位、坂牧一静（皐月） 「バーディーは7つ。しかし、後半出だしてOBのトリプルから、ボギー、ボギー。この3ホールさえ除けばいいプレーでしたけど。明日は14位以内を目指してパープレーで」

○参加最年長の67歳、安河正彰（ミッションバレー）は56位タイ 「若い人に50ヤードくらい置いていかれるけど、楽しく回れました。あと1日、挑戦します」



3位の好位置につける石塚祥成



## 通算6アンダー

# 香妻陣一郎 (宮崎レイクサイド) と千葉蒼隼 (若松) 互いに譲らず首位並走

2 日目は予選第 2 ラウンドが行われ、この日ともに 3 アンダーの 69 を記録した初日首位タイの宮崎・日章学園高 3 年、17 歳の香妻陣一郎 (宮崎レイクサイド) と、福岡・一ツ葉高 2 年、16 歳の千葉蒼隼 (若松) の 2 人が通算 6 アンダー、138 とし、互いに首位を譲らなかった。

香妻はインスタートの出だしの 10 番でいきなり OB を打ったものの、以後をしのぎ、後半はボギーなしの 5 パーディー、31 とチャージした。千葉もインで 1 つスコアを伸ばした後、アウトの 4 番 (パー 5) でイーグルを奪い、再び香妻に並んだ。

3 打差、通算 141 の 3 位タイに福岡第一高 2 年、16 歳の石塚祥成 (福岡雷山) と鹿児島・樟南高 3 年の 17 歳、木下康平 (くまもと城南) の 2 人。さらに 1 打差、142 の 5 位に鹿児島・尚志館高 2 年、16 歳、池村寛世 (リージェント宮崎) がつけた。

晴れ、やや風もあってグリーンが締まって速くなり、スコアを崩す選手が続出。通算でアンダーパーをマークしたのは 5 人だけとなり全てジュニア選手。イーブンパーを入れても 6 人と少数激戦。

この日で予選 R が終わり、通算 16 オーバー、160、77 位タイまでの 88 人が決勝 R に進出した。参加最年長の安河正彰 (ミッションバレー) は 68 位タイで予選通過。同最年少の 12 歳、福岡・沖学園中 1 年の篠原剛 (湯布院) は予選落ちした。

コンディションは晴れ、気温 24.4 度南南西の風 4 m (午後 1 時現在)



白熱した戦いが続く九州アマチュア選手権  
＝玉名カントリークラブ



## 優勝争いは高校生のマッチレース…

香妻陣一郎は昨年の九州アマ、優勝争いをして 2 位で、過去には中学、高校で九州ジュニア選手権通算 3 勝。今年は JGA (日本ゴルフ協会) のナショナルチームのメンバー入りし、アマチュアゴルフ界のエリート街道を走る逸材だ。片や、千葉蒼隼は昨年の九州アマ 5 位、九州高校選手権 2 位タイ。これといった優勝歴は持たない無名の存在。

その千葉が第一人者ががっぷり挑み、逃がさなかった。

インスタートの午前中は 2 パーディー、1 ボギー。この時点で香妻は出だしの OB でのダブルボギーが響き、千葉がいったんはリードした。しかし、後半、両者は力を出し合った。香妻が 1、2、4、5、7 番とパーディーを奪い、前半の借金を返したうえ、3 つスコアを伸ばした。その 2 組後の千葉は 2 番パーディー、3 番ボギーのあと、4 番 (パー 5) で会心の攻め。250 ヤードの第 2 打、3 番ウッドをフルショットして 2 オンし、1 パットで決めてイーグル。先行した香妻に並んだ。



10番で第1打を右にOB。  
渋い表情の香妻陣一朗

「4番は勝負をかけました。このホールは前日もバーディーだったし、相性良かった。このイーグルであとは落ち着いてプレーできた」という千葉だった。ジュニア主導の大会とはいえ、その中で選手権をリードする緊張感もあろう。千葉は「2日間、パターの調子がいい。(3日目に崩れた) 昨年のように目には遭いたくない」。目標は「去年より上に行ければ」と控えめの言葉だが、『上』とはその頭の中には『V』がちらつく位置に違いない。

一方の香妻。出だしのOBで肝を冷やしたが、その後立て直してくるところはさすがだ。

「後半は開き直った。パットのタッチが慣れてきて入るようになった。明日は、アンダーで回ればいいかな」とこれも控えめだが、その目標は最終日。「(冬場のトレーニングで) ショットに自信が出てきて、攻め方、ゴルフが楽になってきた。最終日にスコアを伸ばして勝ちたい」と言い切った。

学年で1年後輩の千葉。決勝ラウンドにどう挑むか、楽しみではある (Kiku)



「あしたは自分のゴルフを」  
意欲を見せた千葉蒼隼

## 首位に3打差

### ピタッと追走する石塚祥成

○…初日2アンダーで、この日も1つスコアを伸ばしての3位タイをキープ。九州アマは3度目の出場で過去は昨年が67位タイ、一昨年44位タイとふるわない。だから、「今年はチャンス。上と3打差は射程内」と言う。

とくに、同学年の千葉に対するライバル意識は強く、「負けたくない」と。国体選考会などで競ってもおり、目標は初めてとなる日本アマチュア選手権と九州オープンゴルフの出場権。福岡市出身。中学1年からのゴルフで、今年の全国高校選手権春季大会26位タイの成績がある。



3位タイにつける  
石塚祥成

○この日70で通算3アンダーの3位タイも木下康平 「パターが調子よかった。攻めないとスコアは出ないし、明日は(上を)意識しないように、自分に集中して戦う」

○昨年の第1回九州ミッドアマチャンピオン、荒川英二(福岡雷山)は通算8オーバーの25位タイ 「風が出たし、後半崩れた。ハーフターンのコンディション維持に失敗した。残り2日、どんだけやれるか…」

○昨年の日本アマベスト8、後半33で通算5オーバーの16位タイ比嘉一貴(パブリック協会) 「後半ショットが良くなった。明日につなげたいです。目標は日本アマベスト4と日本オープン出場。今年は日本タイトルを1つは取りたい」

○春の高校選手権優勝。この日もアンダーパーをマークしての5位、池村寛世 「ショットは良かったが、パターが…。悔いが残るラウンドだった。九アマは4回目の出場で、昨年10位。調子も上がってきているので、今年は優勝争いをしたい」





## 2人のジュニア(高校生)が3アンダーで首位発進

### 香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)と千葉蒼隼(若松)

157 選手が参加して第 1 ラウンドが行われ、3 アンダー、69 のスコアで回った宮崎・日章学園高 3 年、香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)と、通信制の福岡・一ツ葉高 2 年、千葉蒼隼(若松)の 2 人が首位に並んだ。

1 打差、2 アンダー、70 の 3 位タイに長崎国際大 4 年、山下大介(長崎)、19 歳の徳山雄大(麻生飯塚)、16 歳、福岡第一高 2 年、石塚祥成(福岡雷山)、14 歳の中学生、坂本隆一(中津)の 4 人。さらに 1 打差、71 に鹿児島・樟南高 3 年、木下康平(くまもと城南)、宮崎・日章学園高 3 年、尾崎秀平(宮崎国際)ら高校生が 4 人。

試合は戦前の下馬評通り、今年もジュニア勢が選手権をリードした。午後からは雨も上がり日が差してきたが、午前中は霧雨が降り続く“重馬場、の戦い。そんな中で、前回大会 2 位で今年日本ゴルフ協会(JGA)ナショナルチームメンバー入りした香妻は、5 バーディー、2 ボギーとして、同様の 3 アンダーをマークした千葉と並んだ。

### 3 打差に 19 人の大混戦

首位と 3 打差のイーブンパー、72 までに計 19 人がひしめく、大混戦模様の初日となった。

コンディションは曇り、気温 20.4 度、西北西の風 3m  
(午後 1 時現在)



3 アンダー  
首位タイ発進の香妻陣一朗



## 「最後の九州アマだから、かけたい」

### QT 挑戦、プロを照準にする香妻陣一朗

やはりこの男が来た。昨年の大会で、優勝した時松源藏(福岡・沖学園高出、今年プロ転向)にあと一步のところまで迫りながら、取り逃がした。それだけに、心に期するものがあるようだ。3 アンダーのスコアにも「今日は 5 つ、6 つは行けた」と言っていた。

前半が 4 番パー 5 でピン上 2m からパットを決めバーディー。8 番パー 4 でも 4m を沈めて折り返した。後半は 11 番パー 4 でボギーとしたものの、すかさず 12、13、15 番とバーディー(16 番はボギー)を重ねた。

ラウンドを振り返って、「ショットが良かった」と言う香妻。というのも、今年に入ってシーズン前のオフに「家や合宿など

あらゆる機会に結構トレーニングしました」という。その結果、体力、筋力がアップし、「あまり振り回さなくても飛距離が安定して、ボールが飛ぶようになった」そうだ。

加えて、今年、日本ゴルフ協会（JGA）のナショナルチームメンバー入りしたことも、自身の気持ちに強い自覚を芽生えさせた。「メンバー入りしたからには、地方の大会でも上に行かない」と言う。昨年、ナショナルメンバーに選ばれた時、時



松が同じようなことを言っていた。いわば、選ばれた「責任」と「自覚」なのである。

だから、今大会の目標も昨年、時松が記録した大会最少スコアの7アンダーを更新しての優勝で、「できれば2ケタアンダー行きたい」ときっぱり。

さらに、さらにである。香妻は今年、プロへ挑戦する。プロの試合の出場資格を得るためのクオリファイイング・トーナメント（QT）に挑む予定なのである。「大学に行く目標が見当たらないし。早く独立したい」というのが理由だ。

このQTに関しては今年、九州の高校生では一種の「ブーム」の感を呈している。選手の一言にもあるように、木下康平のほか香妻の同級生の尾崎秀平、坂牧一静、今大会は欠場しているが福岡・沖学園高3年の三重野里斗（大分）がQT挑戦を口にしている。

プロになり、トーナメントに出場するのはそうたやすいことではない。しかし、目的意識、目標を持ってするのならば、ジュニアの挑戦を見守りたいとも思う。それがブームに終わらないことを祈って。（Kiku）

7位タイスタートの木下康平



○今大会最年少、12歳の篠原剛（湯布院、福岡・沖学園中1年）（44、40の84のスコアで130位タイ。インスタートで）後半は1番でダブルボギーをたたいてショットもぶれ出し、悔しい。初めての九州アマはとても緊張しました。明日は少しでもスコアを伸ばしたい。

○今大会最年長の67歳で76をマークしての37位タイ、安河正彰（ミッションバレー）（4バーディー、8ボギーの結果に）ここは距離も長いし、ラフに入れるときつい。自分としては上出来。昨年、大川重信さんが日本ミッドシニア選手権で優勝したのが刺激になっている。エージシュート？ はい、それ目標に頑張ります。

○3アンダーでトップタイの千葉蒼隼 今日上出来。トップは気にしない。残り3日間を大事に戦い、去年より上に行ければ。

○2アンダーで3位タイにつけた山下大介 九州アマは3回目の出場。今日はアイアンショットが良く、グリーンエッジとピンの間を狙って攻めたのが良かった。昨年は、九州地区の大学選手権7試合のうち3勝した。上り調子にある今回は日本アマ出場を目指したい。

○1アンダーの7位タイの木下康平 スタートホールでダボをたたいた。ショット、パットとも今イチでした。（今年は北九州オープンで全体の10位タイでベストアマ）今年はプロのQTにも挑戦する予定。だから、（アマ最後の試合になる）九州アマ、日本アマと最後まで目標をしっかりとって集中して戦いたい。

○同7位タイの尾崎秀平 バーディーは1つだったけど、ボギーなしのラウンドでした。ドライバーがややぶれたが、アイアンショットが良かった。この大会、意識せずに、日本アマ出場を目標に戦いたい。

○首位に3打差11位タイの坂牧一静（皐月、福岡・沖学園高3年）ドライバーがプッシュしてスライス。あとは大丈夫。明日は（雨も上がり）グリーンが速くなると思うので、アンダーで回れば。



今大会最年少の12歳、篠原剛選手



## 平成 24 年度 (第 42 回) 九州アマチュア選手権競技

競技報告・大会前日 (2012/5/14)

写真と記事 : GUK

GUK今季開幕戦は「九州アマチュア選手権」

あす 15 日 (火) から、

「玉名CC」を舞台に 160 選手が参戦

九州ゴルフ連盟主催競技 (決勝大会) の今季開幕戦、「第 42 回九州アマチュア選手権競技決勝」が 15 日から、熊本県玉名市の玉名カントリークラブ (7007 ㊦、パー 72) で始まる。

11 県地区で行われた第 1 次予選には 1329 人が参加。この中からさらに 480 人が 3 地区での第 2 次予選 (沖縄県のみ第 1、2 次予選を同時実施) にコマを進め、勝ち抜いた計 140 人と、前年度各県研修会の上位者、前年大会の上位者などの各種シード選手を加えた計 161 人が本戦 (決勝大会) 進出を決め、エントリーした。

その顔ぶれを見ると、今回もジュニア勢が 39 人と目立っている。世代別では 30 歳以上のミッドアマチュアが 97 人 (うち 55 歳以上のシニアが 24 人) で、19~29 歳の若手は 25 人。参加最年少は 12 歳の篠原剛 (湯布院) で、最年長は 67 歳の安河正彰 (ミッションバレー)。

同選手権はこのところ高校生の活躍が目立っているが、今大会も優勝争いの行方はジュニア勢中心の展開になりそうだ。

その筆頭が、昨年の大会で優勝した時松源藏 (冲学園高出身、プロ転向) とデッドヒートを演じ 2 位だった宮崎・日章学園高 3 年、香妻陣一朗 (宮崎レイクサイド)。今年は JGA (日本ゴルフ協会) のナショナルチームメンバーにも選ばれ、気合も入っている。

これを追う高校生は、昨年の日本アマで準々決勝に進出した沖縄・本部高 2 年、比嘉一貴 (パブリック協会) が今春の全国高校選手権 2 位と好調。香妻の同級生の尾崎秀平 (宮崎国際)、前回大会 4 位の福岡・通信制高 2 年、千葉蒼隼 (若松)、九州高校選手権春季大会優勝の鹿児島・尚志館高 2 年、池村寛世 (リージェント宮崎) らジュニアの実力者がひしめく。

中堅、ベテラン勢は前回 3 位の日高雅司 (宮崎国際) や、九アマ 6 位タイで第 1 回九州ミッドアマ覇者の荒川英二 (福岡雷山) らに期待。前回大会 6 位タイの 19 歳の若手、専大 2 年、小浦和也 (宮崎国際空港) らがどこまで絡んでくるか。

開催コースの玉名 CC は 1976 年 (昭和 51 年) 開場。熊本県北部にあり、なだらかな起伏の林間丘陵コース。距離はあるもののフェアウエーは広く、各ホールは豊かな樹林でセパレートされている。これまで、2 度の九州オープン選手権のほか、日本プロ選手権、女子プロトーナメントなどの多くの競技が開催されており、九州アマチュア選手権は 1997 年 (平成 9 年) 以来、3 度目の開催。

第 1 ラウンドは 15 日午前 7 時 30 分、アウト、イン同時にティーオフ。試合は 4 日間、計 72 ホールストロークプレーで争われ、上位 14 人に第 97 回日本アマチュア選手権 (7 月 3~7 日・奈良国際 GC)、同 30 人に九州オープン選手権 (6 月 15~17 日・佐賀クラシック GC) への出場資格が与えられる。



開幕を待つ玉名カントリークラブ